とかち新聞
主筆　松山明
（発行所）北海道足寄郡足寄町　とかち新聞社　電話2551番
毎旬5の日発行　1部70円1カ月200円　1カ年前納2,000円

西小問題はふり出しに？

難しくなつた 神社高台移築

足寄町にとって最大の公共建造物件である西小学校の改築については、本年度に用地を確定、取得のうえ明年度から着工して三カ年計画で完成の段取りとなっていましたが、教育委員会や西小新築期成会などが希望している足寄神社となりの高台へ移転新築する場合は十四億円以上もかかり、現位置で改築の場合は十億円程度という工事費の概算見通しから、町では八月二十六日に関係方面に実情を説明して再考を求めました。それでなくても、足寄市街の立地現況から中央地帯に学校適地があるのになぜわざわざ危険な鉄道や国道を超えて児童を神社高台へ通学させなければならないのか、そこはすでに町民全体のための都市計画スポーツ公園として設計され道知事の認可を得ている場所なのに、そこへ小学校を割り込ませること自体にムリがある—との意見があっただけに、ふり出しに戻った形のこの西小問題は十九日に招集予定の才三回定例町議会での論議の焦点になりそうです。

もともと西小の改築にあたって小林町長は現校地の周辺を買収拡張して現位置で改築する意向でしたが、教育委員会では現位置での改築では工事中の騒音、危険から仮校舎による不正常授業によるマイナスをさけこの機会に広い環境のよい場所へ新築の線を打ち出し〝静かなる対立〟状態となっていたもので、それに拍車をかけたのが西小新築期成会（安久津義人会長）の結成で、校下全域にわたる署名運動によって現位置を否定して新校地での新築を—との校下の世論をもりあげていったものです。

これをバックにして教育委員会では期成会と共同歩調によって、理事者側にたいして才一候補地として役場前の雪印工場跡地への移築をもちかけたものの、これはとってきおの虎の子の公共用地であり、期成会の要望する広い土地ではないということで受け入れられなかったので、さらに才二として武藤誠康氏周辺、才三に矢野寛一氏周辺、才四にボーリング場周辺をあげたものの、いずれの候補地も現位置と大同小異だとしてとりあげられなかったかわりに、町の方から期成会の主張する広くて環境のよい場所として常盤高台を示して足寄駅からの通学歩道橋の設計もそえて、町側からはじめて現位置以外の提案があったものの、こんどは期成会側から寒風の強い常盤高台にボツンと小学校だけ建てても環境がよくない、通学橋に危険性があるとして反対、そこよりも低く中学校、高等学校、里見ガ丘公園に近い神社高台こそが最適地だとして、ふたたび校下全域から賛成署名をあつめて逆提案におよんだものです。

この神社高台案についてはスポーツ公園にくい込むことになるので、道知事の計画変更を必要とすることと、公園と学校とが両立するかどうかで、昨年いらい理事者も議会もともに検討課題となっていましたが、道土木部都市計画課の担当者が来町して現地をみて、町民の要望であれば計画変更に支障はないとしながらも、才三者の客観的な見方として、市街の連担状況から雪印跡地あたりが適当ではないかとの意見だったようです。

もはや結着つけるとき

西小は危険校舎のためによる改築なので、危険校舎の部分の坪数だけが補助、起債の対象となるので、現位置であれば体育館があり鉄筋校舎を改装し、周辺の土地を買収、拡張してプールや住宅を移転し、工事中の仮校舎をふくめて十億円程度で改築できるが、神社高台へ移転新築となれば補助、起債の対象にならない部分をもふくめて全部新築しなければならないので町費の持ち出しが大きいうえに、全用地の買収、道路、通学歩道橋の新設などで十四億円以上の建設費となるので完成までの三年間はこのために他の産業、福祉施策などが犠牲となるばかりでなく持ち出し部分が多いだけに財源の捻出が苦しいということで、さらに運動公園の一部を小学校のグラウンドとして併用するというのも変則的で、学校教育に支障のないようにと、別個に町民が常時自由に使える運動公園の意義が失われるので、町理事者としてはふり出しに戻して現校地での改築を望んでいるようです。

これにたいして期成会の幹部の意見としては

一、芽登、ラワン、大誉地上利別、中足寄などの統合新築のために、これまで西小がおきざりにされてきたことを考え、明年は必ず着工すべきだ

二、神社高台は校下の総意である

三、道路や歩道橋は西小だけが必要なのではなく、中学、高校生、一般住民も利用できる

四、現位置の体育館や鉄筋校舎がムダになるのではなく、社会教育、社会体育などに活用される

五、財源難というが、こうした大事業についてては国や道にたいして積極的に政治的にはたらきかけて獲得すべきで、努力すれば不可能ではない

六、現位置より新位置の方が余分に軽費のかかるのは当然のことで、金の問題よりも町百年の大計に立って将来悔いを残さない場所にすべきで、三年間も仮校舎で不完全な教育となる損失が大きい

として、まくまでも既定方針どおりにすすめるべきだとしていますが、現校地に戻るのではここ三年がかりで二度にわたって署名運動を展開して新位置での新築を推進してきた期成会の活動が無意味となり立場もなくなるわけです。

現位置も神社高台も難しいとすれば、才三の方法として雪印跡地への移築が考えられますが

一、教育委員会も期成会もここを才一候補地にあげていたところで、町は役場庁舎や消防庁舎などの予定地としているが役場増築によって事情が変っており、必要なら西小跡地を活用すればよい

二、市街の中心地なのでそこには諸行事のための広場が必要であり、西小のグラウンドにしておけば授業に支障のないかぎり永久的に町民広場として利用できる

三、国道バイパスによって東小の体育館、音楽教室に住宅などが支障となり移築せねばならないが、そのために校舎全体に影響し全面移築の場合もあり、近くに用地があるとしてもそばに国道や鉄道が走る環境よりも、両国橋の架換が完成するこの機会に西小と統合して名実ともに町の中央小学校にした方がよい

四、統合校舎となれば三分の二の高率補助で新築できるので財政的に有利であり、着工がおくれただけに現存の大規模校の長所をとり入れたもっとも近代的な学校になるので同じ市街での二校の格差をなくすことができる

五、こうすれば運動公園は計画どおりにスッキリしたものになるし、東西両小の建物と土地を有効に活用できるし、建設中の仮校舎の心配もなく通学歩道橋新設の負担もなくなる

などのプラスがあるとともにマイナス面としては

一、雪印跡地は西小現校地程度の面積なので、周辺の土地買収、家屋移転の問題が生ずる

二、東小は六学級の完成学級で、地域ぐるみの伝統学風で効果をあげておりこのよさをなくすことになる

三、小学校の適正規模は十二学級から十八学級程度といわれているので、西小の二十四学級でも多いところへ東小が加われば実編成は二十八学級の見込みでさらにマンモス化することになる

などがあげられます。

そうしたことから才四の方法として、美盛地区の特養老人ホーム付近に才三校を新設して、西小、東小とも現位置で改築してそれぞれ適正規模の通学区域を設けて三校併立の小学校とするか—どちらにしてももはやこのあたりでギリギリ結着をつけるべき時機となっています。

国のうちそと

▼金権政治、金権選挙はいまにはじまったことではなく、明治、大正、昭和を通じて一貫して存在している事実であるのに、いまごろになって金権の本家、本元である財界のエラ方達がこれを云々するに至ったのは、七月の参議院選で与野党の勢力差が七議席に接近して、このままでいけば三年後の改選では革新勢力にリードされるのではないかという不安感からで、参議院と同様に衆議院もそうなって自民党が政権の座から離れることになれば一番困るのは大資本、大企業なのだから、自民党に金を出さないのではなく、出すからには上手に使ってほしいという財界の愛のムチ。

金権政治の共犯者は

▼参議院選後に田中政治を批判して大臣をやめた福田、三木の両氏は、いまになってさかんに金権政治を非難して、二年前の総裁選挙では札束で衆参議員や代議員を買収して田中総裁ー首相が実現したかのように公言しており、参議院選では田中派の候補者には一万円札をトランクにいっぱいの陣中見舞をおくったこと、八月にはこれはという議員には田中首相から一千万円以上の中元見舞かとどいてサスガの青嵐会もこのところおとなしくなつたなどと、公然と伝えられていること。

▼糸山英太郎議員派の金権選挙ぶりばかりを追っているような日本の大新聞は政界の小物には強いが大物には弱く、ニクソン大統領を辞任に追いやったニューヨークタイムスやワシントンポストだけの役割を果し得ないところに政治がよくならない原因があること。

▼金を使って議員になるその議員を札束でかりあつめて総理大臣になるーこれは民主政治のなかでもつとも悪いことで、金を使うものは悪いがそれに応ずる相手がなければこの悪いこともできないわけで、金を使えば当選もするしものが成就するというのでは、金権政治、金権選挙の共犯者はそれに相呼応する国民でもあるということ。

ご愛顧二十年
みなさまのおかげで開店二十周年を
迎えることができました
今後ともよろしくお願いいたします
北海道銀行足寄支店
支店長　高木喜一

庭石は道東随一の当会社へご用命下さい
有限会社　大浦建設
造園　土木　造林　造材　請負
足寄町芽登　T11
大浦晃

大自然のなかの人工美
ーいで湯のふるさとー
観光と保養の
♨芽登温泉
足寄町芽登　T二八五五

不動産についての御相談は
調査　売買　あつせん　管理　分譲
代行　登記　損害保険　代理まで
同和、興和火災保険代理店
北海道免許十26
足寄不動産事務所
足寄町本通り三丁目　T二二三四五

一五〇キロ高速ホイルバランサー
レッカー車　フレーム修正機
RM　アクリル　調色機
新鋭機導入！
札幌陸運局認証　整備　板金　塗装
ムトウ自動車工業
足寄町　T二五七八　夜間専用　三七一九

家具　建材　アルミサッシ
既製家具から注文建具
住宅産業に奉仕する！
有限会社　桜井家具建具店
足寄町北五区　T二三六二　工場西五区

秋の衣料
が各産地から続々と入荷いたしておりますので御光来、御用命下さい。
物価高に負けないよう足で集めて参りましたので価格も安く、また形も流行品ですので、御満足を得られることと存じますのでお早目に秋をお買い下さい。お待ち申し上げます。
株式会社　前田呉服店
足寄町駅前商店街　T二〇三三

技術に生きる！
ビクター
テレビ　ラジオ　レコード　ステレオ
ーあらゆる電気器具ー
有限会社　ミネ・デンキ
足寄町三笠通り　T　2642